

5 環境にやさしい農業の推進
及び地産地消と食農教育

(1) 地産地消の推進について

2003年より取り組んでこられた農業・化学肥料に頼らない環境創造型農業の「コウノトリ育む農法」のお米や「コウノトリの舞」の農産物は、安全・安心の証である豊岡ブランドとして、消費者の信頼を獲得し消費拡大に繋がるとともに、農業者、農村にとって明るい未来に繋がります。

さらなる普及を図るため、取り扱っている店舗の拡大や学校給食の食材利用の拡大について、市の指導強化はもとより取り扱い事業者への優遇措置を講じられた。

(2) 食農教育の推進について

社会・食生活の多様化は、家庭の味や地元農産物を使用した伝統食の継承が失われるなど、食への悪影響は少なくありません。

次世代を担う子どもたちに、こども園・小学校の授業の一環として野菜栽培、調理体験や地域の農業体験での農業者との交流を通じて、食を

6 その他

(1) 「スマート農業」の推進について

「スマート農業」の実施は、農業者の労力軽減、生産性向上など農家の「働き方改革」に大変有益であります。

特に豊岡市においては主力とされる水稲への導入が必要と考えます。田植え、草刈り、耕うん、防除などの作業に取り入れるため、最新の情報や活用事例の紹介など農家への積極的な情報発信に努められたい。

また、導入にあたって高額となる費用負担に対し、機械のレンタルやリース制度の活用や補助制度の拡充についても検討されたい。

(2) 「農福連携事業」の仕組み作りについて

障がい者・高齢者の方など農業者以外の方への農作業の委託は、人材・労働力確保の面からも重視する必要があります。

しかし、農作業の委託には双方の問題点や立場を理解することや作業

生み出す農業の大切さを理解する取り組みを継続されたい。

(3) 農業が生み出す環境問題について

近年、プラスチックごみによる海洋汚染が問題視されるなか、農業生産においても、マルチや被覆肥料などのプラスチック問題について適切な対応を講じられたい。

能力向上のための援助も必要であり、委託側と受託側の双方の利益が一致することが課題であります。

(3) 異常気象における対応について

「農福連携事業」推進のため、相互の理解と交流を図る窓口を新設し対応されたい。

近年の異常気象により、高潮、豪雨、豪雪などによる農産物や農業機械への被害が増大しています。JAなど関連団体とも連携し、さらなる対策や支援を検討されたい。

また、円山川堤防が整備強化されたが、豪雨時には排水処理が困難となり、内水氾濫による農作物被害が発生しています。国に対して大型排水ポンプ設置の要請を検討されたい。

(4) 中山間地域の農地を守るために

遊休農地の増加、農地の山林化が進む中山間地域においては、獣害対策や水路の補修には多額の資金が必要であり、農業者が投入する労力にも限界があります。

経営所得安定対策の「水田活用直接支払交付金制度」が改定され、5年に一度は水田として活用すること条件とされたことにより、事業実施が困難となることが想定されます。

本制度について地域の実情を考慮した制度の見直しを県・国に求められたい。

城崎地域



来日地区の農地の状況

城崎地域の農地利用最適化推進委員を担当して早くも6年が経とうとしています。

城崎地域の農地は山間の小規模農地群で広くて2反、それ以下が連続と続いている圃場が大半です。昭和40年代までは、兼業農家が主流の自己管理で潤っていました。機械が入らない山地は衰退やむなし、湿田は徐々に管理地化が進み現在に至っています。このような中、戸島耕地や下島耕地は大規模圃場整備が実施され広大な区画の圃場に変わり、今は集落営農化されています。

農地パトロールで目に付くのは、遊休農地の増加です。そのいちばんの要因は人材不足です。最近離農された方々に聞くと「今まで請け負っている人達も高齢になり無理は言えないし、比較的若い人は自分の所で精一杯と言われる。」と、途方に暮れておられました。

更に追い打ちとなつてきているのが有害鳥獣対策です。城崎地区はほとんどの農地が山裾に位置し、特に鹿と猪の対策なしでは耕作できません。飯谷地区や来日地区などは集落全体



岩本推進委員



石橋農業委員

を囲まれていきます。しかし、起伏があり、河川や道路を挟むと途切れてしまい万全には出来ません。最後は個々の対策になってるのが現状です。

二見中山間地域は、山裾に3町歩余りの耕地の中、沿うように市道とJR線が通っています。これまで電気柵で対策していましたが被害が抑えきれず、三年前、金網メッシュを奨め翌年度に完成しました。この秋は被害がりましたが、幸い市道を跨いでの侵入はありませんでした。

他の地区でも同様な状態が見聞きできました。改めて農地の保全の難しさを感じています。

今年度残された期間、様々な課題はあるものの、委員として最後まで頑張っていく所存です。どうかよろしくお願いたします。

(推進委員 岩本 照雄)

弘道・福住・寺坂地区(出石地域)



福住地区の農地の状況

私の担当しているのは、弘道・福住・寺坂地区です。平地は圃場が保たれていますが、山間地では、遊休農地が多く、徐々に増加してきています。我々の任務は、その農地を活性化することです。食料の確保だけでなく、防災・環境保全にも対応した重要な役割を担っています。そのような中で一番心配しているのは、農業人口の著しい減少です。現代では60歳で定年し、帰農するよりも、会社勤めを続ける人も多く、農業への関心が薄れているのが現状です。兼業農家の減少もあいまって、専業農家への期待が増加していますが、その数はまだ少ないです。

当地区の土地改良区は一ヶ所です。中山間地の遊休農地化、山林化を防ぐには、基盤整備をして耕作地を増やすことが必要だと思います。そのためには、地主の理解が不可欠です。このような状況が続けば、農業人口の減少につながる一因となると思います。

これからは農地を守り、食を守る活動が私達の使命と考えております。どうか農家の皆様には、私達の活動へのご理解とご協力をよろしくお願いたします。



川見推進委員



井谷農業委員

(推進委員 川見 正康)

日本の農業に、
未来と希望を。

Agri Robo

先進の自動運転テクノロジーが動き出した。

株式会社
東海近畿クボタ

豊岡営業所
豊岡市木内228-1
TEL 0796-22-5141

出石営業所
豊岡市出石町分95
TEL 0796-52-3036

日高営業所
豊岡市日高町松岡153-3
TEL 0796-42-2628